
この度、宝塚商工会議所は、ソリオ宝塚都市開発(株)と逆瀬川都市開発(株)とともに宝塚市中心市街地活性化協議会を立ち上げました。

宝塚市中心市街地活性化協議会設立趣意書

平成19年3月19日

宝塚商工会議所会頭 宮本博司
ソリオ宝塚都市開発(株)代表取締役社長 樋口 健
逆瀬川都市開発(株)代表取締役社長 田中 勝彦

我がまち宝塚は、景気がようやく明るさを増しつつある中、今後さらに進展する大きな構造変化を乗り越え、宝塚全市をあげて健全で持続的な成長をはかっていかねばなりません。そのための重要課題の1つが、地域経済・社会を活性化することです。

旧中心市街地活性化法のもと、平成12年5月にソリオ宝塚都市開発(株)がTMOの認定を受け、これまで南口サンビオラのリニューアルや中心市街地の商業活性化等ソフト事業を主体として実施してまいりました。しかしながら、駅間競争の厳しい現実さらされ、駅前に目立つ魅力の衰退、空店舗等が発生し、このような課題・問題を克服し、21世紀にふさわしい新たなまちづくりを推進することが大変重要となってきました。

こうした認識は日本全国の都市にあり、日本商工会議所において、まちづくり3法(中心市街地活性化法、大店立地法、都市計画法)の抜本的見直しへの取り組みによって、法改正されるに至りました。今回の改正は、今後の人口減少社会に対応するとともに、都市機能の集約化によって社会総コストを極力抑制し、高齢者にも環境にもやさしく、安心・安全で美しいまちづくりを推進する画期的な内容です。要は、新たな仕組みづくりと道具が整備されることになりましたが、それらを活用できるかどうかは、宝塚の中心市街地の選択と判断に大きく委ねられています。

この度の法改正中、逆瀬川地区、とりわけアピア1・2の権利者の方々が、駅前立地でのあるべきビル機能について種々協議をし、今後の方向性について新たな指針を作成する熟度があり、逆瀬川地区として新中心市街地エリアに名乗りを上げており、旧法中心市街地エリアと合わせて地域の活性化について議論が始まっています。旧法中心市街地エリア、宝塚地区の都市再生は、宝塚ファミリーランド閉園を機に始まり、観光都市宝塚の魅力の再生が取り組みられ、JR宝塚駅の橋上化と駅前広場の整備計画も現在進められています。また、宝塚南口地区(サンビオラ)では、民間活力による活性化を目指しています。

商店街も大型店等も、消費者・住民にとってはともに必要なものです。また、商店街も自ら創意工夫し最善の努力をしていくことは言うまでもありません。何よりも大事なことは、両者が共存共栄し、地域にとって大切な歴史・文化が守られ、高齢者にとっても若者にとっても魅力あるまちづくりが、地域自らの手で進められることです。

宝塚におきましては、行政や他の関係機関等と緊密な連携を図りつつ、ゾーニング(区域)の見直しや広域調整メカニズムの創設、大型店が社会的責任を果たしながら地域と共生していくための仕組み、地域ぐるみでまちづくりの企画立案(都市機能の集約、賑わい回復)する場の設定に当会議所が主体となり、中心市街地活性化協議会の設立と運営を図っていく所存です。

関係各位の皆様方におかれましては、何卒本趣旨にご賛同賜り、協議会へのご参画、ご協力をお願い申し上げます。